

大阪インターナショナルチャーチ

2008年 4月6日

ダニエル エルリック牧師

シリーズ : 始まり #12

題 : エバの子供たち

聖書の箇所 : 創世記 4:1-26



I. 初めに

おはようございます。今朝は、Reverend Fun の漫画から始めましょうか。アダムとエバが、ちょうどエデンの園から去ろうとしています。そこでアダムが言います「ぼくたちは知識が欲しくて捜していたんだよ。自分の力を持ちたくてね。そう、ぼくたちは、神さまみたいになりたいと思ったのさ。」アダムのつぶやきは、神から離れて、自分自身のやり方で事を成そうとする危険性を微妙に指摘しています。神は私たちを愛してくださいり、御命令は、全て愛からの動機なのです。先週、話し合いましたように、神の審判は、私たちが神を信じて救われるという神の愛と願いによって、動機づけられたものなのです。もし、この基本的な真理を忘れずにいたら、多くの間違いを避けられるでしょう。自分の生き方においても、また聖書の解釈においても。

創世記 1:27 は、こう語ります。「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」神が、このようになさったとき、神は又、私たちに子供を生むという能力も含めて、自由意志と創造の賜物をお与えになりました。神は、初めの人、アダムとエバを創造され、それから、何をなさったでしょう。創世記 28a です。「神は彼らを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。』」神は、人々をあまりにも愛されたので、世が、人々で満たされるようにと命令されたのです。時々、ある夫婦は思います。

「神は、私たちに子供を生むことを望まれているのだろうか。」と。答えは、

こうです。神は、一般的に結婚した夫婦に、子供が生まれることを望んでいらっしゃいます。けれども、神は、たまに

「いいえ」と言われるときもあります。確かに、地球は今、神がその命令を与えられた時より、はるかに多くの人が溢れています。ですから、夫婦は何人の子供を生むべきかを決められる時、このような事実も考えに入れられてよいかもしれません。

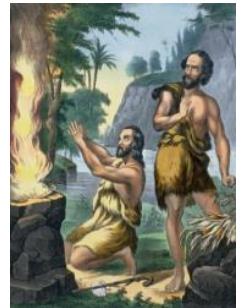


アダムとエバは、善悪の知識の木から禁じられていた実を食べてしまいました。それで、厳しい結果に苦します。けれども、神は又、救い主が、エバの子孫から生まれてくる約束を与えてくださるので。さて、創世記 4 章では、アダムとエバが救い主が来られるのを待ちながら、この世を人で満たすという約束を果たし始めます。さあ、創世記 4:1-7 を見ていきましょう。

- (1) さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。(2) 彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった(3) 時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持てて来た。(4) アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、(5) カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。(6) 主はカインに言われた。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。(7) もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」

II. 教え

創世記 4:7 では、間違ったことをしてしまったことに気付いたカインを、明らかに表しています。私たちには、直接告げられていませんが、神は献げ物について指示を与えられていたようです。カインは、その指示に従わないで、代わりに自分自身の考えに従い献げ物を供えました。カインの怒りは、彼の心の状態を暗示しています。一方、アベルは純粋な心からの豊富な献げ物を供えました。この Sigried Bendixien による 1870 年の絵画は、アベルが礼拝しているところを、カインが嫉妬の目で見ているところが描かれています。多くの聖書学者は、献げ物はエデンの園の入り口、ケルビム（智天使）がいる所で献げられていたと考えます。私たちは、そのことについて先週あまり話し合いませんでしたが、聖書では、ケルビムの存在は、絶えず聖なる所を示し、そこでは特別な形で神が臨在し、人々が礼拝しにくる所となっています。



カインは、野菜を捧げ、アベルは家畜の群れから、最初に生まれた子羊の一番良い部分を献げました。けれども、ヘブライ人への手紙 11:4a では、二人の献げ物の本当の違いは何であるかを伝えてくれています。「信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ」本当の違いは信仰です。カインは宗教的な儀式を演じたのです。それに比べ、アベルは、信仰を持ったのです。神は、ただの宗教的な儀式を望まれるのではなく、私たちの真の心を望されます。信仰は心の態度です。ヘブライ人への手紙 11:6 にあるように、「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」ということですね。

カインは憤りました。そこで、カインはどうしましたか。創世記 4:8 は、こう伝えています。「カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。」カインは不信仰から、思い上がった献げ物をし、怒りと憤慨した態度を取るようになり、続いて今や殺人犯となってしまうのです。カインは、下り坂を一気に転げ落ちていきます。1570 年に Titian によって描かれたこの絵画には、その場面が描かれています。カインは信心深い人でした。ですから、献げ物を主の御前に持ってきたのですが、彼の心は正しくなかったのです。カインは、神を襲うことができないので、何も悪いことをしていない弟アベルを殺すことにしました。怒りと嫉妬の心は、簡単に暴力へと変えられます。政府は、暴力を減らす方法を模索し、カウンセラーは、怒りを管理するプログラムを考えます。けれども、その問題の根底に潜むものは、もっと深いのです。ただ神への信仰、神の愛と公正が、人の心に平安をもたらすのです。



神はカインにどのように応じられたのでしょうか。創世記 4:9 を見てください。「主はカインに言われた。『お前の弟アベルは、どこにいるのか。』カインは答えた。『知りません。わたしは弟の番人でしょうか。』」主の質問は、カインに告白と悔い改めの機会を与えてくれています。しかし、カインは、自分の罪を隠す方を選んでしまいます。カインの態度と聖書の教えには、何と大きい隔たりがあることでしょう。ヤコブの手紙 2:8 は、こう教えています。「もしもあなたがたが、聖書に従って、『隣人を自分のように愛しなさい』という最も尊い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。」神の律法は、愛の律法です。神を愛し、隣人を愛し、兄弟姉妹を愛することです。でも、プライドと罪深い心が、嘘や偽りそして暴力を知るのです。カインは、告白と悔い改めをしないので、神はカインを裁き、家族からも神の隣在からも追放されてしまいます。けれども、神はまた同時に、カインの人生を守られ、神に立ち返り悔い改めるようにな道を開いてくださって

いるのです。ペテロの手紙二は、このように宣言しています。主は、誰一人として滅びてしまうことを望まれていません。主は、すべての人が、悔い改め、救われることを望まれているのです。



少し飛ばして前へ進んでいきましょう。創世記4：17です。「カインは妻を知った。彼女は身ごもってエノクを産んだ。カインは町を建てていたが、その町を息子の名前にちなんでエノクと名付けた。」ここで、カインの気持ちや恐れをよく考えてみると、カインの建てた町は、たぶん壁をめぐらした要塞のような所だったことでしょう。この町では、神の礼拝は、たぶん稀にしかされていなかったようですが、文化と学問は、繁栄していました。ここの箇所は、創世記では、長い年月が本文の中に要約されてしまっていることがよくあることを、思い出させてくれます。ある人々は、このことを忘れてしまい、次のような質問をします。「カインは、どこで自分の奥さんを見つけたのかな。」と。でも、アダムとエバは、地球を人でいっぱいにするように命令されていました。創世記5：4では、はつきりと述べられています。アダムとエバは、もっと他に娘や息子がいたと。その子たちの名前は、聖書には記されていませんが。

私は、ミズリー州のある町で育ちましたが、その町にバー・ボサとうメキシコレストランがありました。私たち家族は、毎年1,2回そのレストランへ食べに行ったものでした。そこは、ちょうどお城のような建物。そして料理の美味しさと言ったら、まあ右に出る者はないでしょう。でも、料理以上に素晴らしいこと、それはバー・ボサの家族でした。バー・ボサは、15歳の時に結婚し、このレストランを始めたそうです。ドアのそばの壁には、家族の写真があります。前回、私がこの店へ行ったとき、何と24人の子供たちと108人の孫の写真が貼っていました。それは、今から30年前のことですから、今では、ひょっとしたら1000人になっているかもしれませんね。けれども、アダムとエバは、バー・ボサ一家に比べると、もっと強く健康だったと思われますから、カインには、多くの姉妹や姪があって、彼が100歳になる時までに、この世は、何千人の人々がいたことでしょう。



もし私たちが、創世記4章すべてを読めば、カインの町に住む人々は、音楽と金属細工の技能があったと分かります。歴史家や考古学者は、音楽と金属細工が古代からあったと意見が一致し、これらの技能が何世紀にも渡って、ゆっくり発展していったと信じています。たとえば、この写真にある骨でできているフルートは、約9000年前に作られたと考えられています。でも、青銅の像は、ほんの4000年ほど前に作られたようです。鉄の道具は、もっと最近のものです。でも聖書以外では、カインの町に相当する時に、音楽や青銅が、時と共に発展していったという証拠は何一つ見つかっていません。



けれども、これは、驚くに値しません。カインの町のあらゆる証拠は、ノアの洪水で破壊されてしまい、深くうずもれてしまったからです。多分、それはいつか、見つかるでしょう。考古学上の証拠の欠如は、私たちが、まだ見つけていないということに過ぎません。ノアの洪水の後、鉄や銅の道具を作る才能は、何世紀もかけてもう一度磨かれなければなりませんでした。それらは考古学者が見つけているものに、ちょうど一致しています。創世記5, 6章を見ますと、人間の長い寿命と他の要素が、急速な発展の中で、たぶん人々に熱意を与えたと考えられます。ノアの洪水の後、人間の寿命は、だんだん短くなり、各世代、また異なった状況により、科学技術の進歩が学び直されなければなりませんでした。皆さん、創世記12章から前に読み進めていきますと、聖書がまた、徐々に科学技術の進展を記録していることも分かります。

創世記4：23-24にこうあります。「さて、レメクは妻に言った。『アダとツイラよ、わが声を聞け。レメクの妻たちよ、わが言葉に耳を傾けよ。わたしは傷の報いに男を殺し／打ち傷の報いに若者を殺す。カインのための復讐が七倍なら／レメクのためには七十七倍。』」レメクは、彼を傷つけた男を殺してしまいます。傷に対して、レメクは、死で報いました。けれどもレメクは、自分に、普通とは異なった基準を適応させたいと思います。つまり、自分を傷つけた男に報いるためには、七十七倍もの罰を課せたいと願うのです。レメクは、だれでも彼に危害を加える人には、大きい仕返しをすると脅迫し、自分自身を守ろうと思っているようです。

それは、まさに人間の考え方。けれども、主イエスの考えは、とても違います。マタイによる福音書 18：21—22 は、このように語ります。「そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。

『主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。』イエスは言われた。「あなたに言っておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」人間のやり方は、仕返しを倍に増し、憎しみを募らせ、暴力に至ります。しかし、主のやり方は、許しを倍に増し、愛と恵みを注ぎます。さて、私たちはどうでしょうか。誰かに傷つけられた時、皆さんの態度は、どうですか。相手に倍の許しを、それとも倍の仕返しをされますか。皆さんは、暴力と憎しみを募らせますか。それとも、愛と恵みを注がれるでしょうか。もし、イエスに従いたいと願われるなら、主の道を歩む必要があるのです。

創世記 4：25—26 です。「再び、アダムは妻を知った。彼女は男の子を産み、セトと名付けた。カインがアベルを殺したので、神が彼に代わる子を授け（シャト）られたからである。セトにも男の子が生まれた。彼はその子をエノシュと名付けた。主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである。」創世記 4 章は、すべてがよくない知らせではありません。私たちは、そこで人間の最初の殺しと最初の抑えきれない叫びが見られます。しかし、今そこに、最初の復活が見えるのです。

「主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである。」とあるように、エノシュの時代に主の名を呼び始めたのです。この聖句には、二つの意味があります。一番目に、神への祈りと復活の意味、二番目に、神の民であることを認定するために主の御名を用いる意味もあります。

III. まとめ

4 章の最後で、人類は、2 つの民族に分けられます。まず、カインの子供たちの集まり。かれらは、憎しみと報復の道に従っていきます。そして、もう一つは、セトの子供たちの集まり。彼らは、主の名を求め、神の民として認められています。その時、男も女も私たちが今日、向き合っているのと同じ選択を迫られていました。私たち各々は、選ばなければなりません。カインとその子供たちのやり方に従いますか。それとも、主の御名を求める人々の方に従いますか。



ヘブライ人への手紙 12：22—24 では、主イエス・キリストの御名を求める選択をしている人々に対し、このように語っています。「しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの靈、新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。」

アベルの血は、殺人のカインを訴えて、地から泣き叫びました。けれども、キリストの血が、哀れみ、恵み、そして愛を語り、十字架から流れ落ちたのです。イエスに向かい、「はい」というすべての人、イエスの御名を呼び求める人、イエスにあって、彼の十字架上で成し遂げられた御業での信仰によって救われる人は、みんな神の民なのです。さあ、祈りましょう。

IV. 最後の祈り